



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

日本支部

# Newsletter

発行元 : SID日本支部  
 発行責任者 : 面谷 信  
 発行日 : 2014年 9月14日

第57号

支部HP URL : <http://www.sid-japan.org/index.html>

## SID Plans For The Upcoming Years Amal Ghosh, SID President



I am delighted to write this article for the 2014 September issue of the Japan Chapter Newsletter. During my many years of association with SID I have been exposed to the activities and membership levels of all the SID chapters of the world. I

would like to mention that I was always amazed by the level of activity and the number of members that the Japan chapter carries. In fact the Japan chapter has the unique distinction of having the highest number of members in a single chapter. This is very impressive and I congratulate the chapter leadership for not only carrying on with the activities but also sustaining the membership.

I am honored to be the President of SID for the next two years and I am dedicated to serving the society to the best of my capacity. For the duration of my tenure I have set some aggressive goals for the society in various areas. These include:

- **Memberships:** Increase both the individual and corporate memberships. Our goal for individual membership growth is about five percent and for corporate membership it is about twenty per cent.
- **Conference Attendance:** We expect to increase the attendance for all the conferences by at least ten percent over the next two years.
- **Expansion of SID Activities:** Since the display industry has a large presence in Asia our goal is to reach out and expand our activities in these areas. Towards this end, our primary focus will be in China where the

display industry has seen a very rapid growth over a short period of time. However, we shall have increased efforts to expand in Japan and Korea as well.

- **Streamlining Governance:** The governing structure of the society is about fifty years old and it requires some restructuring. For example, the Japan chapter has about 700 members and there is only one Director whereas some other chapters have less than 10 members and also have a Director. This leads to inappropriate representation at the SID board for its members.

We just concluded the SID-sponsored IMID in Daegu, Korea. It was a tremendous success. The next major event of this year will be IDW at Niigata, Japan, which will be held in December. I hope many of you will be able to attend this workshop. Our annual Display Week conference will be held in the city of San Jose, CA, during May & June, 2015. I strongly urge every one of you to consider attending it since it will have many new and exciting topics in the field of displays.

As you may already know, our premier society for displays is in its fifty second year of existence and is doing well. A society, such as ours, is primarily based on volunteers. I could not emphasize it more that our volunteer base is the foundation structure of our society. To that end, I would like to thank all the volunteers for their countless hours of personal and professional sacrifice to make SID a better society.

Finally, I am looking forward to seeing many of you at the next IDW workshop to be held in Niigata during the month of December 2014.

## Voices of the 2014 SID Award Winners

### KARL FERDINAND BRAUN PRIZE

近藤 克己（シャープ株式会社）



サンディエゴ、それは私にとってこの上ない心地よい響きの地名です。南国情緒豊かな街路樹や美しく咲き誇る花々、海岸線の絶景、さわやかなそよ風・・・1982年5月に初めて訪問した時の印象は今なお鮮烈です。当時、大学院博士後期課程の学生であった私は米

国での地に将来の可能性を求

めて、一ヶ月の旅に出ました。その最終地がサンディエゴでした。奇しくも旅の途中でSIDを紹介頂き、帰路の予定日が学会初日という幸運も重なり、なんとなく参加しました。

遡ること更に2年前、1980年6月に京都で開催された液晶国際学会で液晶の魅力にすっかり取り付かれ、当時はサイエンスの世界へ飛び込もう考えていました。しかし、SIDで液晶技術を応用したデモ機を見た時の衝撃は、決めたはずの方向を再考するには十分でした。帰国後考え抜いた上で、最終的に企業で液晶ディスプレイの研究開発に従事することにしたのです。

前職である（株）日立製作所入社後当初は技術シーズとニーズのマッチングで悪戦苦闘しました。やがてIPS-TFT液晶という技術に出会い、諸先輩方々のサポートを頂きながら多くの有能な研究者と共に夢に向かって無我夢中で開発に取り組みました。そして、商品化した年である1996年に初めてSIDで発表する機会が与えられました。場所はサンディエゴでした。歳月は経ちましたがその美しい景観は変わらず、量産化に至る苦勞を忘れさせ、また頑張ろうという勇気を頂きました。

またご縁があり、2008年にシャープ（株）に移った後にもSID日本支部長を、その後Japan Directorを微力ではありますがやらせて頂き、現在に至っています。

そして、今回の「KARL FERDINAND BRAUN PRIZE」という大変に名誉ある賞をこのサンディエゴという私の研究者人生を方向付け、また研究成果の発表の場となったこの地で頂くことに不思議な縁を感じます。今回のSIDでは一緒に頑張ってくれた、そして将来を担う弊社の若手研究者2名がDistinguished Paperを頂く栄誉に預かり、同じ位嬉しい出来事でした。

最後になりましたが、今回の受賞に際して関って下さった沢山の方々に心から御礼を申し上げると共に、これからも若い方々と一緒に、ディスプレイ業界の発展に向けて走り続けることをお約束したいと思います。本当にありがとうございました。

### FELLOW AWARD

安達 千波矢（九州大学）



この度は、名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。これまで一緒に研究に携わってきていただいた皆様に心から感謝申し上げます。また、本受賞にあたり多大なるご支援をいただいたコニカミノルタ辻村様（SID本部Secretary）にこの場をかりて感謝申し上げます。

ます。有機ELの第三世代の発光材料（熱活性化遅延蛍光材料：TADF材料）の基本的な原理の実証から高効率デバイスの実現までの研究開発を2012年に九州大学で進めたFIRST PJにて成功し、この新しい方式での新材料の開発とその実用化が、現在世界中で加速しております。TADFは骨格を限定せず、有機材料設計の無限の可能性を生かした分子設計が可能であるため、RGB全ての色において、高効率な材料の創出が可能となります。今後、有機ELの新しいアプリケーションが各企業から販売され身近なものになるに伴って、TADF材料が世界中で使われ、有機ELの世界的普及に貢献できることを願っております。

栗田 泰市郎（日本放送協会）



このたび、名誉あるSID Fellowの称号を賜りました。誠に光栄に存じます。受賞できたのは、SID日本支部の錚々たる皆様に一方ならぬご支援をいただいたおかげです。あらためて、皆様に厚くお礼申し上げます。

本賞は、アクティブマトリクスディスプレイ動画表示画質などのディスプレイ画質解析と、高画質ディスプレイシステムの研究開発に対していただいたものです。私は1994年からディスプレイに関わりましたが、当時のPDPやLCD



はCRTに比べて画質的に劣る部分がありました。それらを改善すべくいろいろな研究開発を行いましたが、特にLCDの動画表示画質に関する研究は、世界のディスプレイ界の皆様に注目されました。その後、黒挿入やバックライト点滅／走査、倍速120Hz表示など、私の提案に沿った技術が多くのLCDやOLED製品に採用されてきたことは喜びです。今回の受賞を大変嬉しく存じます。ありがとうございました。

### SPECIAL RECOGNITION AWARD

原 善一郎（三菱電機株式会社）

この度は名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。受賞対象は、有機ELを目地レス配列した大型表示装置開発への貢献です。一般に有機ELパネルを配列すると、隣接するパネル間に封止部や電極部が非発光部として露出します。新開発のパネルは、独自の加工技術により電極をパネルの中央部から引



出すことで、パネル周辺の非発光部を縮減しました。さらにパネル間の目地解消に適した画素配列や、輝度、色のばらつき補正、画像の均一化技術など、当社が長年取り組んできた大型表示装置のノウハウを適用しました。大型表示装置はニッチな技術領域ではありますが、今回の受賞は、有機ELの新たな用途の実証と大型表示装置の技術が総合的に評価されたものであり、共に開発を推進した多くの皆様に感謝申し上げます。有機ELパネルは、東北パイオニア（株）様との共同開発であり、輝度・寿命など、実用的性能の実現に、多くの協力を頂きました。同社に深く感謝申し上げます。

## SID日本支部 第10回サマーセミナー開催報告

2014年8月27、28日の二日間にわたり、キャンパスイノベーションセンター東京国際会議室にて、SID日本支部主催の第10回サマーセミナーが開催されました。昨年までの合宿形式とは異なる開催となりましたが、講師、幹事を含め73名と多くの方に参加いただきました。映像システムの基本原理から、液晶の光学や有機ELの基礎、また超解像技術や視覚特性、さらには酸化半導体、タッチパネル、量子ドットなどディスプレイ分野における最新技術動向など、幅広い技術領域にわたる講座で構成されました。初日夜には懇親会も開催され、参加者間ならびに講師の先生方との交流を深めることができました。



講義の様子



懇親会の様子

### SIDサマーセミナー参加者の感想

小林 絵美氏（パナソニック株式会社）

今回、初めてサマーセミナーを受講させていただきました。視覚特性やディスプレイ光学から、量子ドットディスプレイや印刷技術などの次世代技術、さらにはディスプレイ機器のトレンド・最新動向まで幅広い分野の先生方が熱弁をふるってくださり、日頃の自学だけではとてもフォローしきれない横断的な知識・最新情報がたくさん得られました。また、議論が頻繁にとびかい、刺激的でとても有意義な講演ばかりであったという間の二日間となりました。一日目夜に開催された懇親会では、講師の先生方や自分と同年代である他社の若手社員の方々と交流

する機会を得ることができました。様々な業種の方とざっくばらんにお話ができる機会はあまりなく、ここで得られた経験とつながりを今後大切になりたいと思います。とても充実した二日間を過ごすことができ、大変感謝しております。

河野 孝明氏（長岡技術科学大学）

私は大学で液晶関係の研究室に所属しており、始めてこの講演会に参加させていただきました。講演会ではディスプレイという題目に対して、色々な立場の先生方のお話を聞くことが

できました。ディスプレイの原理、液晶、有機EL、TFT、画素、タッチパネル、実機、など幅広い内容で、まだ知識の足りない私でも理解できるような内容もたくさんありました。講演では資料も配布されており、どの先生方ともとてもわかり易く説明していただきました。ディスプ

レイの研究や開発をされている方や、ディスプレイに少しでも興味がある方にはぜひ一度は参加していただきたい講演会です。また、私にとっては自分自身さらに知識を身につけて、もう一度参加したいと思えた充実した二日間でした。

## 第21回ディスプレイ国際ワークショップ (IDW '14) 開催案内

IDW '14が12月3から5日に開催されます。今年はSpecial Topics of Interest として 1) Oxide-Semiconductor TFT, 2) Augmented Reality and Virtual Reality, 3) Lighting Technologies, 4) Printed Electronicsの4つにスポットライトを当てたセッション構成をとっております。また新たにInnovative Demonstration Sessionが企画されております。Advance Programが公開されておりますので、IDW '14のホームページ <http://www.idw.or.jp> より入手してご覧ください。

日時: 2014年12月3日 (水) ~ 5日 (金)

場所: 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

主なスケジュール

Late-News論文投稿期限 : 9月 25日

割引参加登録期限 : 10月 31日

## IDW '14学生発表者支援制度について

SID日本支部の健全な発展とSID日本支部の学会活動の活性化を図ることを目的に、IDW において成果発表を行う学生会員の参加を支援いたします。主な内容としては以下の通りです。

1. 支援額: 10,000円。(IDW '14の学生参加費に相当します)
2. 支援対象学生: IDW '14で講演を行うSID日本支部に所属する学生会員。なお申請と同時のSID会員手続き可能。
3. 申し込み期限: 11月7日

申し込み方法など詳細は、<http://www.sid-japan.org/> の「IDW学生支援制度」を参照してください。

## 2014年度主な研究会日程

日程	研究会名	開催地
10月22日	画像技術・視覚・その他一般研究会	東京・機械振興会館
12月2日	IDW '14チュートリアル	新潟・朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
12月3日~5日	IDW '14	
15年1月24~25日	発光型／非発光型ディスプレイ合同研究会	京都・龍谷大学響都ホール校友会館

編集後記：今年のサマーセミナーは校長の雲見先生を始めとした幹事の宣伝と会場の変更が功をなして多数の参加者となりました。講義をしていただいた講師の方々並びに参加された皆様ありがとうございました。参加者のほとんどは若手と言うこともありSID非会員でした。上司の勧めで参加という方が多かったようです。来年も皆様のご案内よろしくお願いします。

編集担当：志賀智一（電通大）tomokazu.shiga@uec.ac.jp